

多面的な生徒情報の収集～切れ目のない支援

北海道北広島西高等学校 松藤邦彦

○実践の概要

1 多面的な情報の収集と活用～支援体制づくり

生徒は発達障がいをはじめ、家庭や生活の問題、心身の健康問題、学校不応答・不登校など多様な問題を抱えている。個々の事例に対し、多面的・客観的な情報が不可欠である。さらに、日々の観察やコミュニケーションによる情報の更新によって、「活用できる情報」として全体で共有し、適切かつ柔軟な支援体制づくりが進んだ。

2 外部機関との連携による支援体制づくり

地域や外部専門機関との連携を深め、一人一人の生徒理解を深めた。

(1)外部専門機関（医療機関、Youth+・ホムステイ、スクールカウンセラー、養護学校、児相・警察）

(2)北広島市（市保健福祉部福祉課、子ども発達支援センター、障がい者自立支援協議会）

3 校内研修「特別支援学習会」

普通高校勤務経験のある養護学校の先生に「普通高校教員の目線」での講演を依頼。発達障がいの特性に応じた指導や支援のあり方について学習した。高校教育における特別支援の重要性、授業の工夫・悩みの共有、支援・指導のヒント、「通級指導」の必要性等について様々な意見が見られ、充実した学習会になった。

4 切れ目のない支援

(1)進路先への引継（大学・専門学校・事業所）

入学・入社前に、保護者同伴で相談の場を設ける。本人・保護者の不安を軽減するとともに、その後も情報の連携を図る。

(2)札幌市若者支援総合センター（Youth+）・札幌若者ホムステイ・ユウ（ホムステイ）との連携と引継

中途退学者、卒業時進路未定者が、社会参加できる窓口として、在学中からつながりを作っておくことを目的に、密接に連携を継続している。

○実践の成果

1 保護者、担任・学年・全体、外部機関との連携により、多面的な情報を収集し、生徒一人一人の特性の理解に努めた。その情報の簡潔化と更新を進めることで、全体の柔軟な「情報共有体制づくり」を定着させることができた。

2 研修会により、特別支援教育の必要性、授業の工夫・悩み、支援・指導について共有することができた。

3 切れ目のない支援による「社会に有用な人材育成」と「生徒たちの進路実現」のため、一層の連携の広がりを求めていくことが、社会の重要な役割だと再認識した。

